

日本語教育学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
日本語教育学概論	日本語教育の世界	2	小河原義朗	3	火	3
日本語教育学概論	日本語学習者の多様性とコースデザイン	2	島崎薫	4	火	3
日本語教育学基礎講読	日本語教育文法	2	小河原義朗	4	月	5
日本語教育学基礎講読	日本語学習者の日本語を知る	2	島崎薫	3	月	5
日本語教育学各論	日本語教育評価法	2	伊東 祐郎	集中 (6)		
日本語教育学各論	日本語教育のためのフィールドワーク	2	村田 晶子	集中 (5)		
日本語教育学演習	日本語コースカリキュラムの評価	2	小河原義朗	6	火	4
日本語教育学演習	話し言葉の教育	2	小河原義朗	5	金	2
日本語教育学演習	地域日本語支援	2	島崎薫	6	水	2
日本語教育学演習	日本語学習者が持つ「異文化」を知る	2	島崎薫	5	火	4
日本語教育学実習	日本語コース運営の基礎	2	小河原義朗	5	水	3・4
日本語教育学実習	日本語コースの運営と改善	2	小河原義朗	6	水	3・4

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB32303, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語教育の世界

2. Course Title (授業題目)：Introduction to the Teaching of Japanese as a Second Language

3. 授業の目的と概要：

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の声を通じて全体を概観する。同時に、普段当たり前のように使っている日本語、そして実際に生活している日本社会を外から俯瞰して眺め、社会における日本語教育の意義・役割について理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides an overview of Japanese language teaching and opportunities to see Japanese language communication objectively to help students learn about the significance of teaching Japanese in our society.

5. 学習の到達目標：

(1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。

(2) 日本語教育を通して日本語や日本社会を客観的に捉えることができる。

(3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to:

1. understand what is Japanese language teaching

2. see Japanese society objectively through Japanese language teaching

3. understand the role of Japanese language teaching in society and explain it in their own words

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 日本語教育を取り巻く社会情勢

2. 日本語教育とは

3. 日本語教育と日本語

4. 日本語教師の仕事

5. 日本語教育の現場を知る1

6. 振り返り1

7. 日本語教育の現場を知る2

8. 振り返り2

9. 日本語教育の現場を知る3

10. 振り返り3

11. 日本語教育の現場を知る4

12. 振り返り4

13. 日本語教育の現場を知る5

14. 振り返り5

15. 日本語教育の役割

※5回の「日本語教育の現場を知る」では、実際の日本語教育や支援の各現場からゲストスピーカーを招く予定である。そのため、全体の流れも変更になることがある。

8. 成績評価方法：

レポート40%・課題30%・授業参加度30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：

指定された資料を読んだり、ビデオを視聴したりする。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合は、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学概論／ Teaching of Japanese Language (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：島崎薫 (准教授)

講義コード：LB42302, 科目ナンバリング：LHM-LIN205J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語学習者の多様性とコースデザイン

2. Course Title (授業題目) : Diversity of Japanese Language Learners and Course Design

3. 授業の目的と概要：

現在世界で約 400 万人の人たちが日本語を学んでおり、その増加に合わせて学習者の文化背景やニーズ、レディネスなどの多様化が進んでいる。この授業では、様々な背景や目的を持つ学習者を取り上げ、彼らについての理解を深めるとともに、そういった多様な学習者のためにどのようにコースデザインを行うべきかを知り、コースデザインに関する基礎知識を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Nowadays roughly 4 million people are learning Japanese all over the world. The more people are learning Japanese, the more diverse learners' cultural back grounds and needs, readiness become. In this course, students will develop their understanding of learners' diversity --cultural backgrounds and learning purpose, and gain basic knowledge of course design for these diverse learners.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・海外の日本語教育現場の多様性を説明することができる
- ・様々な日本語学習者について詳細を説明することができる
- ・コースデザインに関する基礎的な知識を使って、多様な背景を持つ学習者のためにコースデザインをすることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:
explain the diversity of Japanese language education abroad
describe the diversity of Japanese language learners
design a course for learners with diverse backgrounds by using fundamental knowledge of course design

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：海外の日本語教育（オーストラリアの事例）
- 第3回：海外の日本語教育（国際交流基金/JICA）
- 第4回：海外の日本語教育（中国の日本語教師の事例）
- 第5回：海外の日本語教育（インタビュー）
- 第6回：海外の日本語教育（資料作成）
- 第7回：海外の日本語教育（発表）
- 第8回：プログラムやコースをデザインするとは？
- 第9回：学習者の多様な背景を知る
- 第10回：学習者の多様なニーズ・レディネスを知る
- 第11回：コースデザインの練習
- 第12回：コースデザインの発表
- 第13回：グループごとにコースデザイン
- 第14回：グループごとにコースデザインの発表
- 第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

前期に実施されている日本語教育学概論を履修し、単位を取得していることがこの科目の履修条件です。

Students are require to have earned credits from the course "Teaching of Japanese language" in spring semester.

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB41504, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語教育文法

2. Course Title (授業題目)：Pedagogical Grammar in Japanese language

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるために必要な日本語文法の基礎を理解し、具体的な授業実践と結び付けて考えることを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to help students understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese and consider it relating to Japanese teaching practice.

5. 学習の到達目標：

- (1)日本語教育ための文法の基礎を理解し、説明できる。
- (2)基礎的な文法知識を使って日本語を分析することができる。
- (3)文法を日本語教育の実践と結び付けて考えることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to:

1. understand the basic knowledge of Japanese language grammar for teaching Japanese
2. analyze Japanese language by using grammatical knowledge
3. consider it relating to Japanese teaching practice

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 品詞(1)
3. 品詞(2)
4. 文の構造
5. 格助詞
6. 主題化
7. 自動詞と他動詞
8. ヴォイス
9. テンス
10. アスペクト
11. ムード
12. 複文
13. 文章と談話
14. まとめ：文法を教える
15. 期末テスト

8. 成績評価方法：

期末テスト 30%・クイズ 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I II III』くろしお出版

10. 授業時間外学習：

毎回授業の始めに前回の内容理解を確認するクイズを行うため、復習して次回授業に臨む。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学基礎講読／ Teaching of Japanese Language (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：島崎薫 (准教授)

講義コード：LB31504, 科目ナンバリング：LHM-LIN213J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語学習者の日本語を知る

2. Course Title (授業題目) : Develop understanding of how Japanese language learners use "Japanese"

3. 授業の目的と概要：

この授業では、日本語学習者との会話を通して日本語学習者が使用している「日本語」について理解を深める。2週間に1回、計7回の日本語学習者との会話セッションを実施する。そのセッションを通し、日本語学習者の日本語運用能力をどのように測るのかを検討したり、学習者がする誤用のレベル、種類、原因について考えるとともに、教える側はどのように学習者の誤用に対応することができるのかを考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will further understand how Japanese language learners are using "Japanese". This course includes 7 conversation sessions (every two weeks) with Japanese language learners. Through these sessions, students will consider what Japanese language proficiency is, develop their understanding of the levels, variation, causes of errors made by learners, and learn how to give learners feedback on their errors.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・学習者の言語運用能力とは何かについて説明することができる
- ・誤用のレベル、種類、原因について理論的に説明することができ、具体例を挙げるることができる
- ・フィードバックの種類について説明することができ、具体例を示すことができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- ・describe what Japanese language proficiency is
- ・explain the levels, variation, causes of errors made by learners theoretically as well as show appropriate examples
- ・explain the variation of feedback as well as show appropriate examples

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：日本語学習者とのセッション：自己紹介

第3回：日本語能力とは何か

第4回：日本語学習者とのセッション：レベルチェック

第5回：「誤用」とは何か

第6回：日本語学習者とのセッション：誤用の種類に注目する

第7回：誤用の種類

第8回：日本語学習者とのセッション：誤用のレベルに着目する

第9回：「転移」とは何か

第10回：日本語学習者とのセッション：転移に着目する

第11回：フィードバックの種類

第12回：日本語学習者とのセッション：フィードバックの実践

第13回：フィードバックに対する学習者の反応

第14回：日本語学習者とのセッション：効果的なフィードバックを意識して

第15回：まとめ

*第2回、4回、6回、8回、10回、12回、14回は、留学生との会話セッションです。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○ ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：・留学生との会話セッションを実施するため、初回の授業に必ず出席してください。どうしても出席できない場合は事前に授業担当者の島崎 (k.shimasaki@tohoku.ac.jp) まで連絡をしてください。事前連絡がなく、初回の授業に参加しなかった学生の授業履修は認めません。

・この授業の履修を希望する留学生は、初回の授業の前に島崎 (k.shimasaki@tohoku.ac.jp) に連絡をしてください。この授業では、母語話者相当の日本語能力を必要とするため、日本語能力の確認をします。

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中 (6), 単位数：2

担当教員：伊東 祐郎 (非常勤講師)

講義コード：LB98822, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語教育評価法

2. Course Title (授業題目)： Testing in Japanese Language Education

3. 授業の目的と概要：

1. 日本語教育カリキュラムと評価の関係について理解する
2. テストの目的、役割、機能について理解する
3. 言語知識と言語運用力の測定方法を理解し、テスト課題を検討することができる
4. 運用力のメカニズムを理解し、運用力を引き出す方法と測定手順、評価の方法がわかる

日本語能力の評価は、テストをはじめ、複数の手法を用いて行うことが可能です。本講義では、言語知識及び言語能力について概観し、テストにおける良問作成のために必要な理論と技能を獲得することをねらいとします。また、最近のスタンダードにおけるテストの役割についても考察します。テスト作成の演習とディスカッションを通して、評価に対する理解を深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

1. Understand educational assessment in teaching and learning
2. Understand test purposes and types.
3. Write the specifications for individual test tasks
4. Develop and analyze their own tests.

This course is intended for two groups of students, ones in introductory language testing and language teachers who need to create tests for themselves or their schools or program. The students will deepen their knowledge of how to plan, write, and administer tests. Emphases are on development of basic practice of language assessment, which help educators make more effective use of evaluation, assessment, and testing procedures in the Japanese language classroom. It is also provided a conceptual overview of how to score and analyze test results, as well as an overview of test validation procedures. The course involves a better understanding of the qualities of good assessment and of processes and techniques for improving testing. A practical and widely applicable approach to building quality assessments for use in the classroom or in testing programs is also introduced.

5. 学習の到達目標：

1. 言語テストにおける信頼性、妥当性、実用性、真正性の概念を把握し、テストを作成できる
2. 得点の分析から良問を判定できる
3. テスト結果の統計的処理方法を把握し、そこから得られる情報を解釈できる

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After successfully completing this course, students will be able to:

1. Prepare grading criteria and answer keys along with tests
2. Make informed decisions about assessment programs
3. Understand descriptive statistics and standard scores.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 日本語教育におけるテスト及び評価

第2回 テストの特性：信頼性、妥当性、実用性、真正性

第3回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「文法」

第4回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「文字」

第5回 言語知識と言語能力-その構成要素を考える：「語彙」

第6回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「聴解力」

第7回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「読解力」

第8回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「口頭表現力」

第9回 言語能力とテスト項目作成の実際 (作題と検証)：「文章表現力」

第10回 統計数値の活用 (その1) -良問作成のための項目分析の手法

第11回 統計数値の活用 (その2) -テスト実施後に得られる得点の活用と解釈

第12回 テスティングにおける言語能力記述文 (Can-do Statements) の役割

第13回 スタンダードとテスト-教育内容の透明性と一貫性

第14回 日本語教育におけるテスト-教授・学習・評価の視点から

第15回 評価法のまとめ/修了試験 (学期末試験)

8. 成績評価方法：

- ① 受講時の平常点 (40%)

② 事前課題演習及び発表 (40%)

③ 修了試験 (20%)

9. 教科書および参考書：

○教科書 1

書名：『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』

著者名：伊東祐郎 著、

出版社：アルク

出版年：2008

○教科書 2

書名：『日本語教師のための評価入門』

著者名：近藤ブラウン妃美

出版社：くろしお出版

出版年：2012

○参考書 1

書名：『テストを作る』

著者名：関正昭・平高史也編村上京子他著

出版社：スリーエーネットワーク

出版年：2013

○参考書 2

I 書名：『言語テストの基礎知識』

著者名：ブラウン, J. B.、和田稔訳

出版社：大修館書店

出版年：1999

○参考書 3

書名：『〈実践〉言語テスト作成法』

著者名：バックマン, L. F. 他、大友賢二他監訳

出版社：大修館書店

出版年：2000

○参考書 4

書名：『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』

著者名：吉島茂、大橋理枝訳編

出版社：朝日出版社

出版年：2004

○参考書 5

書名：Designing and Analyzing Language Tests (Oxford Handbooks for Language

Teachers)

著者：Nathan T. Carr

出版社：Oxford University Press

出版年：2011

備考：Includes a CD-ROM.

10. 授業時間外学習：

○受講前（事前）に、既存のテストを分析し、測定しようとしている言語知識、言語能力についてまとめ、開講中に発表する。

○既存のテストについて、出題内容、構成、解答形式等の観点から分析・考察し、開講中に発表する。

○毎時の授業前後に、指定されたテキストを読んで、理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

受講資格：グループ演習及び発表を予定しているので、全回出席が可能な者

科目名：日本語教育学各論／ Teaching of Japanese Language (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

semester：集中 (5), 単位数：2

担当教員：村田 晶子 (非常勤講師)

講義コード：LB98823, 科目ナンバリング：LHM-LIN307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語教育のためのフィールドワーク

2. Course Title (授業題目)：Fieldwork for Japanese Language Education

3. 授業の目的と概要：

日本語教育にいかに関係するフィールドワークの技法を生かすことができるのか、講義と実践を通じて学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course aims to develop students' understanding of the fieldwork method. Through lectures and exercises, participants will learn to apply the fieldwork method to language education.

5. 学習の到達目標：

受講者は以下のことを学ぶことができる：

1. フィールドワークの意義、背景、技法を理解する
2. 日本語教育にいかに関係するフィールドワークを用いることができるのか理解し、簡単なフィールドワークを実施し、結果をまとめることができるようになる
3. フィールドワークを受講者自身の研究や教育に生かすことができるようになる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Participants will learn the following:

1. The basic method and techniques of fieldwork
2. How to conduct mini-fieldwork and apply fieldwork to language education
3. How to use the fieldwork method and techniques in their own research and language teaching

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 文化人類学とフィールドワーク
3. 言語教育とフィールドワーク
4. フィールドワークの技法 (1)
5. フィールドワークの技法 (2)
6. フィールドワークの練習 (1)
7. フィールドワークの練習 (2)
8. フィールドワークの練習 (3)
9. ライフストーリーインタビューについて
10. ライフストーリーインタビューの練習 (1)
11. ライフストーリーインタビューの練習 (2)
12. ライフストーリーインタビューの分析
13. フィールドワークの言語文化教育への応用 (1)
14. フィールドワークの言語文化教育への応用 (2)
15. フィールドワークの言語文化教育への応用 (3)

8. 成績評価方法：

出席を含む授業参加度 (20%)、課題 (40%)、期末レポート (40%) により評価する。欠席 3 回で、自動的に不可となる。遅刻・早退は、2 回で欠席 1 回とみなす。

9. 教科書および参考書：

教科書/Textbooks

佐藤慎司・村田晶子 (2018) 『人類学・社会学的視点からみた過去、現在、未来のことばの教育』三元社

参考書/References

村田晶子・箕曲在弘・佐藤慎司 (2020 予定) 『留学生と学ぶ多文化フィールドワーク：多様な人々とつながり、対話するために』(ナカニシヤ出版)

10. 授業時間外学習：

課題図書を読み、フィールドワークの課題の準備、まとめをおこなうこと。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

出席と積極的なクラス参加を重視します (グループディスカッション、フィールドワーク含む)。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB62405, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語コースカリキュラムの評価

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course evaluation

3. 授業の目的と概要：

日本語コースカリキュラムの評価は、誰が何のために行うのか、コースカリキュラムの中でどのような位置づけにあるのか、何を評価の対象にするのか、どのような種類があるのかについて、学習活動の体験、テスト・ルーブリックの作成、スタンダードの分析等を通じて基本的なことを確認する。そして、コースカリキュラムにおいて、学習目標が評価を規定し、評価が学習活動を規定すること、多面的な評価の重要性を認識することを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to develop students' understanding of the matters to be considered in deciding of evaluation method for language course. Through activities and exercises, students will learn to apply the backward design to Japanese language course.

5. 学習の到達目標：

- (1) 言語教育における評価の現況について、基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2) 様々な評価の方法について理解し、説明できる。
- (3) 日本語コースカリキュラムのバックワード・デザインができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will learn the following:

1. basic principles of evaluation in language teaching
2. various methods of evaluation
3. backward design in Japanese language course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コースデザイン
3. コースカリキュラムの評価(1)
4. パフォーマンス評価
5. コースカリキュラムの評価(2)
6. ルーブリック評価(1)
7. ルーブリック評価(2)
8. コースカリキュラムの評価(3)
9. 伝統的評価と代替的評価
10. テストによる評価(1)
11. テストによる評価(2)
12. スタンダードの分析(1)
13. スタンダードの分析(2)
14. ポートフォリオ評価
15. バックワード・デザインとまとめ

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。
同時に日本語教育学実習を履修していることが望ましい。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB55207, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：話し言葉の教育

2. Course Title (授業題目)：The teaching of oral language skills in a Japanese language course

3. 授業の目的と概要：

学習者が話すことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、会話の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話をする可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、実践し、評価する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to develop students' understanding of the contents and methods to improve oral language skills in the Japanese language classroom. Through activities and exercises, students will learn how to plan, practice and evaluate oral communication classes.

5. 学習の到達目標：

(1) 話すことを教えるための教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。

(2) 目的に応じて話すことを教えるための教室活動を考え、教材を作り、実践し、評価することができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completing this course, students will be able to:

1. understand various class activities to improve speaking skills
2. create effective class activities and evaluate them through Japanese course

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. コミュニケーション活動の実際
3. コミュニケーション活動の分析
4. 教材作成1
5. 模擬授業の実施1
6. 模擬授業の実施2
7. 授業改善・評価1
8. 教材分析1
9. 模擬授業の実施3
10. 模擬授業の実施4
11. 授業改善・評価2
12. シラバスの作成1
13. シラバスの作成2
14. 教案作成1
15. 教案作成2

8. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

9. 教科書および参考書：

授業内で指定、または配布する。

10. 授業時間外学習：

毎回提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

同時に日本語教育学実習を履修していることが望ましい。

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：島崎薫 (准教授)

講義コード：LB52405, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語学習者が持つ「異文化」を知る

2. Course Title (授業題目) : Understand different cultural background of Japanese language learners

3. 授業の目的と概要：

日本語学習者にインタビュー調査することを通して、学習者が持つ文化背景や考え方についての理解を深める。インタビューの方法を学んだ上で、グループに分かれて調査をデザインし、データ収集をして分析をし、調査結果を教室内で発表するとともに、学期末にレポートとしてまとめる。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

This course helps students understand Japanese language learners' backgrounds and thought through an interview with them. Students will learn how to conduct an interview research, create a research design in group, collect and analyze data, make a presentation in the class and write up a report at the end of the semester.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・日本語学習者が持つ異なる文化背景や考え方への理解を深める
- ・インタビュー調査の方法や分析方法を習得する
- ・調査を通じて分かったことを、論理的に説明することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- enhance their understanding of Japanese language learners' different cultural background and thought
- acquire skills to conduct interview research and data analysis
- explain results from the interview research logically

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、「異文化」を体験する

第2回：学習者が持つ「異文化」に関する調査のデザイン（調査目的を決める）

第3回：学習者が持つ「異文化」に関する調査のデザイン（対象者など調査概要を決める）

第4回：調査のデザインの発表

第5回：インタビューの仕方を学ぶ

第6回：インタビューの練習

第7回：インタビュー準備

第8回：インタビュー準備

第9回：書き起こし

第10回：分析方法を学ぶ

第11回：分析①

第12回：分析②

第13回：分析③

第14回：発表

第15回：振り返り・まとめ

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：日本語教育学演習／ Teaching of Japanese Language (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：島崎薫 (准教授)

講義コード：LB63205, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：地域日本語支援

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Support in Local Communities

3. 授業の目的と概要：

地域日本語支援の様々な現場について調べ、変遷や背景を理解するとともに、実際に現場を見学し、体験することで、それぞれの現場の学習者や教師・ボランティアの置かれている環境について理解を深め、支援の在り方について考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides students with opportunities to explore Japanese language support for foreigners in local communities and enhance their understanding of its history and backgrounds. In seeing and participating in activities conducted by local communities and governments, students can further understand foreigners and instructors/volunteers and deepen their thought of how such support should be.

5. 学習の到達目標：

受講生は、授業履修後以下のことが達成される：

- ・多様な地域日本語の現場について理解し、説明できる。
- ・地域日本語の現場の多様な学習者について理解し、説明できる。
- ・その多様な現場での支援の在り方について自分なりに考えることができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

After completion of this course, students are expected to:

- describe how Japanese language support in local communities is been conducted
- describe the diversity of foreigners/Japanese language learners in local communities
- make their own proposal of how local communities should support such diverse foreigners/Japanese language learners

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地域日本語支援の現状（問題の洗い出し）
- 第3回：地域日本語支援の現状（取り組み事例のまとめ）
- 第4回：ポスターセッション準備
- 第5回：ポスターセッション
- 第6回：中国帰国者の背景と現状
- 第7回：外国にルーツを持つ子どもたちの背景と現状
- 第8回：地域の日本語教室の背景と現状
- 第9回：中国帰国者支援交流センターへの訪問
- 第10回：中国帰国者支援交流センター訪問の振り返り
- 第11回：国際教室への訪問
- 第12回：国際教室訪問の振り返り
- 第13回：地域日本語教室への訪問
- 第14回：地域日本語教室訪問の振り返り
- 第15回：まとめ

*第9回、11回、13回は授業外の時間に実施し、実際に現場を訪問する。訪問日時は訪問先と履修生の都合を照合し、決定する。

8. 成績評価方法：

授業参加態度 30%、授業での課題 30%、最終レポート 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しません。資料は授業内で配布します。

No textbooks will be used. References are handed out at class.

10. 授業時間外学習：

到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

Students are required to prepare and review for class according to the goal and contents of each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：○

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

定員を15名とします。

The maximum number of participants for this course is 15.

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時. 前期 水曜日 4講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB53309, **科目ナンバリング：**LHM-LIN319J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語コース運営の基礎

2. Course Title (授業題目)：Designing a Japanese Language Course

3. 授業の目的と概要：

10月から運営する日本語コースを念頭におきながら、教科書分析および模擬授業とその検討を中心に、以下の内容を扱う。

- 1 言語学習環境としての「教室」のあり方
- 2 学習支援者としての教師のあり方
- 3 シラバス, 到達目標設定, 学習項目設定
- 4 授業見学の視点
- 5 授業活動デザイン
- 6 学習者の日本語

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course, students will learn the following:

1. role of classroom for language learning
2. role of teacher for language learning
3. course design of language learning
4. points of observing language class
5. teaching activities for language class
6. learners' Japanese language

5. 学習の到達目標：

日本語コースを運営するための基礎的な知識と技能を養う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students learn basic knowledge and skills to operate the Japanese language course.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 日本語初級用教科書の検討 1
3. 日本語初級用教科書の検討 2
4. 授業活動のデザインについて
5. 日本語初級用教科書の検討 3
6. 模擬授業の実施
7. 模擬授業の振り返り
8. 日本語中級用教科書の検討 1
9. 日本語中級用教科書の検討 2, 授業活動のデザインの検討
10. 中級の模擬授業実施と振り返り 1
11. 中級の模擬授業実施と振り返り 2
12. 授業見学の視点, シラバスデザイン案の作成
13. 教師と学習者のあり方について, コース概要と学習者の募集, 役割分担
14. オリエンテーションの実施プラン作成, ニーズ調査・プレイスメントテストの検討
15. まとめと6セメスターの日本語コースの開講準備

8. 成績評価方法：

レポート (20%)・課題 (40%)・クラス参加度 (40%)

9. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク
坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ
西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版
文化外国語専門学校編 (2000)『新文化初級日本語 I』凡人社.
筑波ランゲージグループ (1991)『Situational Functional Japanese』 Notes vol.1-3, Drill vol.1-3 凡人社.
川口義一・横溝紳一郎 (2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか.

10. 授業時間外学習：

日本語の教科書を種々閲読し、内容や使用法について考える。
マイクロティーチングや模擬授業の教案を立てて準備する。
実施したマイクロティーチングや模擬授業について、問題点を洗い出し、改善策を考える。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

1 2. その他：

日本語教育学概論，3セメスター開講の日本語教育学基礎講読を含む関係科目を10単位以上履修済みまたは履修中のこと。

6セメスター開講の日本語教育学実習も引き続き履修すること。

全回授業に出席し，積極的に参加すること。

時間外に，日本語授業見学と見学レポートを課す可能性があるので注意すること。

科目名：日本語教育学実習／ Teaching of Japanese Language (Practice)

曜日・講時：後期 水曜日 3 講時. 後期 水曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：小河原義朗（教授）

講義コード：LB63308, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：日本語コースの運営と改善

2. Course Title (授業題目)：Japanese Language Course: its Operation and Improvement

3. 授業の目的と概要：

実際に運営する日本語コースについて、以下の課題に取り組み、授業活動のデザイン力と実践力を養う。
教室研究と学習者研究の方法の基礎も身につける。

- 1 学習者の学習の状態を的確に把握する。
- 2 異文化接触の場としての日本語授業を意識する。
- 3 自分の教授スタイルに気づく。
- 4 授業を適切に評価し、改善策を講じる。
- 5 授業分析の方法を知り、実践する。
- 6 コース全体を振り返りつつ、報告書を作成する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will learn the following:

1. state of learners' learning
2. intercultural contact in class
3. teaching style
4. class evaluation
5. classroom interaction analysis
6. reflection of language course

5. 学習の到達目標：

日本語コースを運営しながら、シラバスの変更、授業の向上を考え、コース全体の改善を図る力をつける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will develop teaching skills to improve the Japanese language course through operating it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション, オリエンテーションの結果について
2. 日本語コース運営の方針について, 授業担当について, 授業報告と授業の予定 1
3. 授業報告と授業の予定 2, 教室活動のデザインとバリエーション
4. 授業報告と授業の予定 3, 教室活動の評価：その視点
5. 授業報告と授業の予定 4, 教室活動の評価と改善 1
6. 授業報告と授業の予定 5, 授業分析の方法 1
7. 授業報告と授業の予定 6, 学習者の観察
8. 授業報告と授業の予定 7, 授業分析の結果, 教室活動の評価と改善 2
9. 授業報告と授業の予定 8, 教師行動の分析：ティーチャートーク
10. 授業報告とまとめ, コースの振り返りと評価
11. 教室活動のバリエーション, シラバスの問題点
12. 授業分析の方法 2, 学習者の達成度の評価
13. 授業分析の方法 3, 教師行動の分析
14. 報告書の作成について, 日本語教育学実習全体についての振り返り
15. まとめ

8. 成績評価方法：

レポート (20%)・実習の運営と実施 (50%)・課題 (30%)

9. 教科書および参考書：

参考書：できる日本語教材開発プロジェクト(2012)『できる日本語』アルク

坂野永理他(2011)『げんき』1・2 ジャパンタイムズ

西口光一(2012)『テーマで学ぶ基礎日本語』vol.1・2 くろしお出版

筑波ランゲージグループ(1991)『Situational Functional Japanese』凡人社.

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック 上・下』ひつじ書房, ほか.

10. 授業時間外学習：

授業の実施・見学などは時間外に行う。運営するコースは、夜間に片平キャンパスで行う予定。

授業分析についても、具体的な活動は時間外学習である。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

5 セメスターの日本語教育学実習を履修済みのこと。

全回授業に出席し、積極的に参加すること。

教壇実習は夜間に実施する予定。

コースの運営・改善に関わるミーティングなども授業時間外に行われることがあるので、注意すること。